

1. 「高浜地区復興まちづくりの会」（10月4日開催）における意見

■皆さんからのご意見・ご提案

復興まちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・高浜小学校までの通学路について、安全に通学ができるよう検討してほしい。 ・津波だけでなく、山崩れなどに対応した防災まちづくりの検討をしてほしい。 ・国道下の道路脇への擁壁の設置や地区の入口に陸閘の設置を検討してはどうか。 ・堤防の内部に入り込んだ水の排水についても検討をしていただきたい。
-------------	--

■主な意見交換の概要

検討の進め方について	Q：復興パターンについては今後住民の意見を取り入れた変更もありうるのか。	→	A：今後検討会で皆さんのご意見をお聞きしながら検討を進めていきます。ただし、各地区でまったく違うものになってしまうよう、市としての基準を設ける予定です。
防潮堤や道路等の施設について	Q：今回の津波を完全に防ぐとしたら、どのくらいの高さの防潮堤が必要か。	→	A：今回の場合は、津波が防潮堤を駆け上がる高さが海拔+19.1mで、1mの余裕を見て海拔+20.1mの高さが必要になると思われます。
	Q：防潮堤の高さは海拔+10.4m以上にならないのか。	→	A：国の方針として、防潮堤については今までに2番目に高い津波を防ぐ高さとしていきますので、海拔+10.4m以上にはならないと思われます。
	Q：防潮堤の嵩上げの時期はいつごろになるのか。	→	A：現在、県が計画を立てているところであり、分かり次第お知らせします。
	Q：消波ブロックは、津波に対してどのくらいの効果があったのか。	→	A：消波ブロックは平常時に波が駆け上がってくるのを防ぐためであり、今回の津波では一緒に流されてしまい、大きな効果は見られませんでした。
	Q：避難道路の幅はどの程度を想定しているのか。	→	A：現段階では、高浜から宮古短大までは車が通行できる道路、山裾は人が歩ける程度の幅員を想定しています。高浜は山へ通じる道があっても、それらを横につなぐ道はないので、孤立しないように人が歩ける道の整備を検討しています。
復興まちづくりについて	Q：高浜は漁業のまちなので、漁業振興なくして復興はありえないと思う。	→	A：漁業を始めとした産業など個別の分野については、来年3月に策定予定の復興推進計画のなかで検討を進めます。
事業手法について	Q：高台移転の場合、全員の同意が必要で、ひとりでも反対すると成立しないということなのか。	→	A：住んでいる場所が危険であるため、そこから集団的に移転するという事業です。住民の皆さんの合意形成が必要不可欠となります。
浸水区域内の土地、建物について	Q：非可住地となった場合は、土地を買い上げてくれるのか。	→	A：移転する区域の全員の同意があれば土地の買い上げができます。
	Q：すでにリフォームをしているところなどは当然現地に住みたいと思うはずだ。	→	A：その場所が危険かどうかを、シミュレーション結果をもとに検討します。必ずしも高浜地区で非可住地を設定するというわけではありません。

2. 「地区復興まちづくり便り」に関する意見

- (1) 「地区復興まちづくり便り」でお知らせしているように、現在各地区で「地区復興まちづくりの会」が開催され、今後、地区別の具体的な検討に入ってまいります。そのことについて、あなたの考えをお書きください。

1日も早く高浜が良くなるようにお願いしたいです。今のところは宮古市が良くならないと行けないです。
(70歳代 女性)

これからも大いに情報提供と意見募集をして下さい。
(70歳代 男性)

情報提供と一人一人の意見を大切にさせていただきたいと思います。
(70歳代 女性)

アンケートの時は、もとの場所に住みたいと答えました。しかし、時がたってくると、高台へ住みたいと考えが変わりました。なぜなら、命だけでなく財産はもう波でぬらしたくないからです。浸水した住宅は、今でもヘドロの臭いがします。今夏は、住宅の中から白アリも出ました。浸水した住宅は高台へ移転して住み直して孫の代へ引継ぎたいです。
(50歳代 女性)

- (2) 地区の復興まちづくりに関連して、あなたのお考えをお書きください。

高浜に大きいマンションができればよいと考えている。今のところは行き先がぜんぜん見えてこないです。
月2回の広報誌を送っていただいているので、いづらか宮古も良くなったかなと考え、宮古市が早く明るくなる日をお祈りします。
(70歳代 女性)

後世に悔いのないために、防波堤を市の海岸全体に高くする(海拔13m以上)。宮古は他市より防波堤が低いようです、国・県に強く要望すること。
(70歳代 男性)

高浜地区の移転先には、高齢者のために、グループホームや老人ホーム等もあればいいと思います。
(70歳代 男性)

屋根と柱が残ったので嵩上げをして修理して住んでいます。復興パターンの案はパターンBの方へ賛成します。旧国道を嵩上げするという考えには賛成できない。
(70歳代 男性)

自宅を修理して住む予定です。国道を嵩上げするというパターンAには反対します。
(70歳代 女性)

高浜地区は、道路の辺りは漁業の仕事場と畑など市民への農地にする。一戸建ての市営住宅は高台へ作り、バス停も移動してほしい。日当たりの良い3区の高台。
(50歳代 女性)

3. 「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査（7月実施）」の自由記入より抜粋

大分類	中分類	意見
防潮堤等の施設について	防潮堤	防波堤、防潮堤はもちろん必要だと思いますが、所々に高いビル。避難場所を確保する。
		子供が防潮堤のない場所を通学しているため、修繕、整備を早急をお願いしたい。
		今回以上の威力のある津波にも耐えられる防潮堤を
	水門	遠隔操作できるようにする。
	国道等	「国道45号線は現ルートのままなのか」を公表してほしいです。
		国道45号は海沿いにあるので津波警報が出ても車で移動する人が多く危険。
		藤ノ川から高浜金浜への道路は海沿いに面しています。不安を感じています。
		早急に三陸道全線開通を望みます。
	県道、市道	高浜町内から山を越えて花輪外に避難できるようにしていただきたい。
		高浜より八木沢地区センターに抜ける道路を通してほしい。
		高浜は今回孤立したので車で移動できる道路を整備してほしい。
		高浜小学校から国道を通らず高浜へ帰れる道を整備してほしい。
		国道が寸断して、特に病院等に行く事が出来なくなって困った。
		高浜小学校北側の山地を整備した住宅団地を經由し、国道45号に至る道路を生活道路及び緊急避難道路として活用する。
		山越えを容易にする道路を整備願いたい。トンネルか今ある山路を拡張し、照明を設置する等検討してほしい。
		生活道路は1本ではなく2本～3本と町の中心部へ通じる道がほしい。
	通学路、小・中・高とも国道（45号）より離れた場所に。	
	避難路	避難路を整備して老人、子供にも逃げやすいようにしてほしい。
		高浜町内から山を越えて花輪外に避難できるようにしていただきたい。
		津波の時にも使える代替道路の整備で孤立地帯をつくらないようにする。
		国道45号だけでなく高浜地域より磯鶏地域に通ずる震災避難道路及び生活道路として早急に造ってもらいたい。
	公共施設	市民文化会館の復旧を早めて娯楽の場の確保をしてほしいと思います。
		市役所等の公共機関を、災害初動時に機能できるように安全な場所へ移転してほしい。
		市役所移転は反対です。
	公営住宅	高齢者は今から家を建てる事も出来ないので、公営住宅等の建設をお願いしたい。
	公共交通	住民の利便になるような路線バスの運行をお願いします。（津軽石方面→高浜→磯鶏、河南中入口バス停、小山田トンネル→ドラ前→宮古駅）
	復興まちづくりについて	将来像
観光は市の一大産業だと思いますが、復興において一番最後の施策でいいと思う。		
漁港について		私は漁業者ですので漁船の確保、漁港の整備などを願います。
		魚がいっぱい取れて生きかえるような町になってほしいと思います。
		今回の震災で弊社の水産加工施設は壊滅しました。秋のさんま漁までの復旧を目指し、整備を進めています。
		道路、港湾の整備、並びに事業者等への支援等一日も早くお願いします。
復興パターンについて		宮古市は広いのですから内陸に向かって復興しましょう。
		高層型のアパートなどの集合住宅にしなくては、津波から逃れられないと思う。
		津波によって水没した土地は住宅用としての利用はやめ、代替地を用意するなどしたほうが良いと思う。
		津波の来る方向に舳先の様な建物を建て、それを高層化し路巾を広くとった町作りをした方が良いと思う。
		住宅建設の支援金の申請期限と、民間賃貸住宅の補助金の期限との整合性を保ってほしい（宅地を確保できなければ期限を延長する等）。

大分類	中分類	意見	
	復興パターンについて	人命安全のため「学校」「公民館」「道路」「住宅造成」等々は強制執行して計画実行する事です。 地区別復興まちづくり計画の中で、高浜地区の場合には昭和8年、チリ津波で高台に移転した人達は災害をのがれました。	
	情報提供	引っ越しをして知らない所で暮らしています。地域の人とコミュニティを取りたいのだけど難しい。	
事業手法について	防災対策	45号線を通行規制していたなら死者や行方不明者も少なくて済んだ。 市民一人一人の防災意識の向上をさらに工夫していきたい。	
		防災行政無線がいかなる時でも機能するようにしてほしい。防災無線の整備と広域的に聞こえる方向の見直しを望む。	
		災害時のマニュアルをより実地的なもの、分かりやすいもの、市民レベルでも理解しやすいものにする。	
		大津波の際の訓練、防災時報があったにもかかわらず、行政での青写真が無かった。	
		通信網・ステーションの確保・地区ごと自治会にまたは避難所に衛星電話、自家発電等の整備、救急隊などが活動、消防署が活動、などの災害対応が充実している町。	
		広域的な視野で防災計画。宮古だけでなく、各市町村と計画、対策作り。	
		ライフラインが途絶えないような仕組みを作る。	
	高台移転	高台に移転するために高浜地区西で宅地造成を進めてほしい 住居は高台にこしたことはないが、宮古市は高台が少ないので、国が考えているようなものは理想であり、宮古市に合うような都市づくりをお願いします。 出来れば代替地できるだけ今の場所から近いところ、小高いところ。 山を削って住まいを高台に早急に計画をお願いします 今回の津波のとどかなかった場所より高い裏山を宅地造成して、安心安全な場所に移転できる事を望んでいます。 住宅建設用地については、被災された多くの漁業従事者を考慮し、小学校及び中学校の通学のこと考え、高浜小学校の北側の山地を整備することが得策と思われる。	
		面的嵩上げ	海岸付近の沈下した事に対し、かさ上げをして高潮に対処措置。 山地を切り崩した土砂については金浜地区の国道45号の嵩上げや被災した金浜地区の嵩上げに活用する。
			区画整理
浸水区域内の土地・建物について	個別再建について	私は被災した家を修理してまた住みたいが、国、県、市の具体的な施策が出ていないため着手できない。 自分達はここに住むしかないので、頑張って家を復旧しどうにか住んでいます。 低かった基礎を80cmかさ上げ工事をして住む事にした。 基礎のかさ上げに対して、さらなる資金援助があれば、ある程度、安心して住む事が出来ると思います。	
		土地の利用	解体した地域は、公園とか運動施設（テニスコート、バスケットコート等、ウォーキングコース）にしませんか。
		売却	現在ある宅地を市が国で買い上げ住宅再建のための資金に活用したい。 浸水した土地の買上げと高台の移住を考えている。